

## 目 次

巻頭言 川村明夫

各部門報告

主要論文（2000年）

- ・ 繊維を用いた白血球細胞除去療法 リンパ球除去は炎症性腸疾患に有効か．川村明夫，他．日本アフェレシス学会雑誌 19(1): 28-33, 2000
- ・ 胸骨斜切開による縦隔内異所性副甲状腺摘出術．米川元樹，他．手術 54(1): 49-52, 2000
- ・ 劇症肝炎に対するアフェレシス．目黒順一，他．人工臓器 29(1): 190-196, 2000
- ・ ブラッドアクセス修復の手技 (2) PTA, ステンント等 interventional angioplasty．久木田和丘，他．臨牀透析 16(9): 1479-1485, 2000
- ・ 献腎移植の周術期 Critical Care．玉置 透，他．集中治療 12(8): 889-897, 2000
- ・ Effect of leukotriene B4 receptor antagonist (ONO4057) on hepatic allografting in rats. Tanaka M, et al. Transplantation Proceedings 32: 2340, 2000
- ・ 骨髄腫腎のアフェレーシス治療．堀江 卓，他．腎と透析 49(3): 511-516, 2000
- ・ ストレスタンパク質と腎虚血再灌流傷害．海津貴史，他．低温医学 26(1): 10-17, 2000
- ・ 骨髄移植関連 TMA とは．笠井正晴，他．血液・腫瘍科 41(5): 387-391, 2000.
- ・ 同種末梢血幹細胞の動員と採取の実際（副作用，Poor Mobilizer を含めて）．木山善雄，他．Progress in Medicine 20(8): 1535-1538, 2000
- ・ 骨髄移植関連 TMA の全国アンケート調査．小林直樹，他．血液・腫瘍科 41(5): 392-399, 2000.
- ・ Helicobacter pylori 除菌後もプロトンポンプ阻害薬（PPI）投与にて治癒の認められない難治性胃潰瘍の1例．斎藤雅雄，他．Helicobacter Research 4(6): 558-561, 2000.
- ・ Preoperative autologous blood donation in hip surgeries. Azuma T, et al. Transfusion Science 23: 177-181, 2000

学会発表

国際学会発表（2000年）

全国学会発表（平成12年）

地方会発表（平成12年）

発表論文

邦文（平成 12 年）

英文（2000 年）

院内講演会報告

編集後記

笠井正晴

巻頭言に替えて

新疆ウイグル自治区の医療をみて

特定医療法人北榆会 理事長 川村明夫

1999年7月、ODA（政府開発援助）が新疆自治区人民医院（中国ではどんな大病院でも医院と呼ぶ）に援助をつけたので、調印式のためウルムチ市を訪れた。日本の窓口は国際難病支援研究会である。上海の中医薬医大付属龍華医院を視察した翌日、上海から5時間半のフライトでウルムチについた。ウルムチは天山山脈の東端の北に位置している。北京からの列車はここが終点である。其の距離およそ4300km、この先は今もめている、キルギス、タジクスタンなど中央アジアの国々になる。あまり時間もなかったので、よく調べもしないで現地に到着した。中央アジアの小さな町、交通手段は口バ、街道の両側に小さな水の流れ、ポプラ、楊柳、チャイハナ（テラスの茶店）、そこでゆったりとお茶を飲む老人達と、まことに牧歌的な風景を想像していた。ところが、あに計らんや150万の人口を抱える大都市、札幌と同じ規模である。街のたたずまいも、これまた札幌によく似ている。街路は広く、ポプラの緑が豊か、南に雪をいただく天山の眺め。想像していた砂漠地帯ではない。天山の北は緑と水、南は砂漠と云う。

新疆自治区人民医院は新疆医科大学の臨床部門である。病院は問診部（日本では外来に相当する）と入院部（入院）に分かれている。街のほぼ中央部に位置しており、周囲は塀に囲まれ、敷地は大変広い。新旧の建物が混在し、古いのは30年くらいを経ており、ひと昔まえの北大を見るようだ。病院の職員数は1900人、病床数は1200である。また、外来患者数は年間60万を越えるそうだ。

問診部はたくさんの患者でごったがえしている。地下から7階まであり、全部外来である。各階の中央にデスクがあり、古手の看護婦とおぼしき人物が座っている。彼女は患者さんのガイドである。新疆自治区には20もの民族が混住しており、生活習慣や言葉も違うので何事も整然とはいかない。子供は走りまわり、おじいさん、おばあさんは手を引かれているが混雑で突き飛ばされている。すると、手を引いているのが怒る。看護婦が出てきて、注意をしたり、なだめたりと、八面六臂の活躍である。壁には診療科の治療内容がこまかに掲示され、それも、漢語、ウイグル語と念がいつてる。先生がたも、やはり色々な民族で構成されており異民族の言葉を解されるそうだ。さて、壁の情報開示と云うか宣伝と云うか、なかなかふるっているのだから、日本語に訳してみよう。例えば、外科の外来の壁に。我が病院の外科はどの様な外科疾患にも対応できる。乳癌では切除、ホルモン療法、放射線による治療を行う。消化器の癌もまかせてもらいたい。切除、郭清はD4?までも行う。肝臓癌も得意である。切除は勿論のこと、肝動脈の結紮、動注療法も行うと、なかなか進んでいるのだ。しかし、今回支援した血液透析部門は急性期の腎不全には比較的よく対応できるが、慢性となるとコストの関係で難しいようだ。お金があるか、特別の人が慢

性腎不全の維持透析が受けられるようだ。そのかわり、移植を積極的にすすめている。やはり、生体腎が多いようだ。しかし、脳死も問題はない。骨髄移植も行っている。これも、施設、病室がクリーン・ルームになっておらず、人の出入りも制限がないようで、ちょっとしんどい感じである。移植の免疫抑制は大黄、冬虫夏草なども使われており、さすが漢方の本家だ。各病棟には所属する全ての医師と看護婦の写真と名前が掲示されている。この辺はたいしたものだ。ようするに出来ることは一所懸命行う努力が払われている。職員の職務倫理規定も掲示され、規律が保たれている。情報の開示と云えば、コンピューターの利用もたいへん進んでいる。たとえば、我が国では見られなくなった様な単純X線撮影装置がある。この装置にコンピューターが搭載されている。技師はコンピューターの画面をみながら画像を処理している。これが、診療部に光ファイバーで送られる。画像の保存もコンピューターで行っている。もちろん、CTなどは当然である。北京大学とインターネットで繋がっている。これが日本ではどうであろうか。メーカーに相談する。メーカーは新しい器械でなければ不可という。医者も云う。学者はもっと云う。技師ももちろん同じ。そこで、たいへん高価な物を購入するか、あきらめるか。購入できるのは公的機関だけということになる。在る物を工夫して何とかしようとする努力などはしない。新しい物を利用する事こそ先進的で科学的だと勘違いしている。学者、公的病院の医師や職員は特にこの傾向がある。自分が賢いのではなくて、器械がやたらに立派なのだと銘記すべきである。すこし、脱線したか。ところでこれだけのコンピューター・システムの維持に教育は追いつくのか、あるいは我が国で見られるように拒絶をするような分子はいないかと、質問してみた。ところが、なんと！50台余のコンピューターの端末が用意された教室のような施設に案内された。此处で職員を定期的に教育するそうだ。出来なければ、医師はとうぜん首だ。資格のあるものには厳しい。このへんも日本の医者などは特権意識ばかり強く、出来もしないのに横着だ。すこし、我が同胞に辛口になった。しかし、かの地の医師や医療従事者が持っている誇りと気概、責任感は日本では希薄になってきたのではないか。場所をわきまえず携帯電話をいじくりまわしているサラリーマンやガキどもを見ていると先行きはやはり心配だ。

(札幌外科医会誌第14号(H11.10.30発行)より)

国際学会発表

2000 年

• 36th American Society of Clinical Oncology Annual Meeting (May 20-23, 2000 = New Orleans, USA)

Factors affecting toxicity, response and time to progression (TTP) in relapsed patients with indolent B-NHL and mantle cell lymphoma (MCL) treated with rituximab

IDECC-C2B8 Study Group M. Ogura, T. Igarashi,  
Y. Morishima, Y. Sasaki,  
T. Kinoshita, Y. Kobayashi,  
N. Uike, M. Taniwaki,  
Y. Kano, M. Kasai,  
K. Ohnishi, K. Tobinai

• 8th Congress of the World Apheresis Association (July 25-28, 2000 = Perth, Australia)  
[Symposium] Strategy for the treatment of severe hepatic failure utilizing artificial hepatic support system

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital A. Kawamura

Selective adsorption of EDA(+)fibronectin in immune diseases

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital M. Yonekawa, A.

Kawamura,

K. Kukita, J. Meguro,  
T. Tamaki, M. Tanaka

• 28th World Congress of the International Society of Hematology (August 26-30, 2000 = Toronto, Canada)

Analysis of lymphoid subsets in apheresis products consecutively mobilized by G-CSF

Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital M. Kasai, N.

Yamaguchi,

T. Ogawa, N. Kobayashi,

M. Ogasawara, Y. Kiyama,  
T. Naohara, T. Higa

Analysis of microsatellite alterations in patients with non-Hodgkin's  
Lymphoma

Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital      Y. Kiyama, N.  
Yamaguchi,

T. Ogawa, N. Kobayashi,  
M. Ogasawara, T. Naohara,  
T. Higa, M. Kasai

• XVIII International Congress of the Transplantation Society (August 27 - September  
1, 2000 = Rome, Italy)

A link between expression of stress proteins induced by fasting and increased  
viability of preserved rat liver

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene  
Therapy

T. Tamaki, M. Tanaka,  
Y. Uchida, A. Kawamura  
Dept. of Surgery, Kitasato Univ.      Y. Takahashi

/

Possible role of tin-protoporphyrin as inhibitor of tissue damage and  
regulator of heme oxygenase-1 on warm ischemia of the rat kidney

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene  
Therapy

T. Kaizu, T. Tamaki,  
M. Tanaka, Y. Uchida,  
A. Kawamura  
Dept. of Surgery, Kitasato Univ.      A. Kakita

A functional link between a specific stress response and increased resistance  
of liver grafts to reperfusion injury

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene  
Therapy

Y. Uchida, T. Tamaki,  
M. Tanaka, T. Kaizu,  
A. Kawamura

Dept. of Surgery, Kitasato Univ.

Y. Takahashi, A. Kakita

• XIIIth International Workshop Gastroduodenal Pathology and Helicobacter Pylori  
(October 11-14, 2000 = Rome, Italy)

[Workshop] Eradication efficacy of rabeprazole, a new proton pump inhibitor,  
in triple therapy for Helicobacter pylori does not depend on P450 genotype of the  
patients

Dept. of Gastroenterol., Sapporo Hokuyu Hospital

N.

Kawamura, M. Saito

Dept. of Gastroenterol., Hokkaido Univ. Sugiyama T, Kudo M,  
Miyagishima T, Nishikawa K,  
Kato M, Takeda H, Asaka M

• The American Society of Hematology, 42nd Annual Meeting (December 1-5, 2000 = San  
Francisco, USA)

Analysis of prognostic factors and pharmacodynamic parameters in relapsed  
indolent B-NHL and mantle cell lymphoma (MCL) treated with rituximab

IDEA-C2B8 Study Group K. Tobinai, T. Igarashi,

M. Ogura, T. Kinoshita,

Y. Kobayashi, Y. Sasaki,

Y. Morishita, N. Uike,

M. Taniwaki, Y. Kano, M. Kasai,

K. Ohnishi

/

全国学会

平成 12 年

• 第 33 回日本腎移植臨床研究会 (平成 12 年 2 月 3~5 日 = 名古屋)

腎移植 3 年後に急激に発症した拒絶反応に対して抗拒絶療法が無効であった生体  
腎移植症例

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 内田 泰至,  
海津 貴史, 増子 佳弘, 村井 紀元,  
有倉 潤, 飯田 潤一, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

生体腎移植後発症したサイトメガロウイルス (CMV) 性十二指腸炎の一治験例

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 内田 泰至,  
海津 貴史, 増子 佳弘, 村井 紀元,  
有倉 潤, 飯田 潤一, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

生体腎移植における後腹膜鏡視補助下ドナー腎摘出術 6 例の検討

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 目黒 順一, 有倉 潤,  
海津 貴史, 村井 紀元, 内田 泰至,  
飯田 潤一, 堀江 卓, 田中三津子,  
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,  
川村 明夫

腎移植患者の不安を緩和するための適確な指導内容と時期の検討

札幌北榆病院 第 6 病棟 川島有美子, 宮崎 稚子, 内山しずか,  
塩田 純子, 疍崎 令恵, 鈴木 雅永,  
安達 るり, 栗坪 睦子

・ 日本医工学治療学会第 14 回学術大会 (平成 12 年 2 月 25, 26 日 = 東京)

〔シンポジウム〕輸血用微小凝集塊除去フィルターを用いた体外免疫調節

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 川村 明夫  
札幌北榆病院 消化器科 斎藤 雅雄

〔シンポジウム〕ブラッドアクセスインターベンション治療に何を期待するか

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

非穿刺型ブラッドアクセスと接続カニューレの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫, 米川 元樹,



久木田和丘，

目黒 順一，玉置 透，田中三津子，  
堀江 卓，増子 佳弘，内田 泰至，  
飯田 潤一，村井 紀元，海津 貴史

/

〔シンポジウム〕透析機器の感染防御

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

阿部 博，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

〔カレントコンセプト〕院内臨床工学部門立ち上げから運営まで - 札幌北榆病院  
の場合 -

札幌北榆病院 臨床工学技士 土濃塚広樹

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫

札幌北榆病院 外科 米川 元樹，川村 明夫

末梢血幹細胞採取時の低Ca症状

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 住田 知則，後藤 洋右，

阿部 博，

中尾 康夫，笠井 正晴，久木田和丘，  
米川 元樹，川村 明夫

・第5回ブラッドアクセスインターベンション治療研究会（平成12年2月26日＝東京）  
非穿刺型ブラッドアクセスと接続カニューレの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫，米川 元樹，

久木田和丘，

目黒 順一，玉置 透，田中三津子，  
堀江 卓，増子 佳弘，内田 泰至，  
飯田 潤一，村井 紀元，海津 貴史，  
有倉 潤，阿部 博

バルーン経皮的血管形成術後長期開存因子の検討

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，有倉 潤，村井 紀元，  
海津 貴史，内田 泰至，飯田 潤一，

増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,  
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

・第 62 回日本血液学会総会 (平成 12 年 3 月 16 ~ 18 日 = 福岡)

Allo-PBSCT 時の GVHD と転帰の解析

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 小川 貴史, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

WT1 アンチセンス DNA による白血病細胞の増殖抑制

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 加藤菜穂子, 山口 薫子,  
小川 貴史, 小林 直樹, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

悪性リンパ腫におけるマイクロサテライト不安定性と標的遺伝子の検討

札幌北榆病院 内科 小川 貴史, 加藤菜穂子, 山口 薫子,  
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴  
札幌北榆病院 検査科 三浦 玲子, 此枝 義記

CNL の 2 症例

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 加藤菜穂子, 小川 貴史,  
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

再発 indolent B-NHL に対するキメラ型抗 CD20 MoAb (IDEC-C2B8) の再投与による成績

愛知がんセンター 血液化療 小椋美知則, 森島 泰雄  
国立がんセンター東 化療 五十嵐忠彦  
名古屋大 第一内科 木下 朝博  
札幌北榆病院 内科 笠井 正晴  
国立がんセンター中央 内科 飛内 賢正

- ・第40回日本呼吸器学会総会（平成12年3月22～24日＝広島）

自然気胸手術におけるヘリカルスキャン三次元CT画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

- ・第100回日本外科学会総会（平成12年4月12～14日＝東京）

炎症性腸疾患に対するアフエレーシス治療と手術適応

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，有倉 潤，村井 紀元，

海津 貴史，内田 泰至，飯田 潤一，

増子 佳弘，田中三津子，玉置 透，

目黒 順一，久木田和丘，米川 元樹，

川村 明夫

門脈結紮肝萎縮モデルの肝再生過程におけるHSP70発現の意義 - 肝切除モデルとの比較

札幌北榆病院 外科 村井 紀元，玉置 透，川村 明夫

昭和大 第二外科 村上 雅彦，草野 満夫

〔サージカルフォーラム〕ラット小腸におけるL-glutamine誘導性heme oxygenase-1とアポトーシスの検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 増子 佳弘，玉置 透，田中三津子，

海津 貴史，村井 紀元，内田 泰至，

此枝 義記，三浦 玲子，横田 亘弘，

川村 明夫

肝虚血再灌流傷害に対する耐性獲得と飢餓ストレス誘導分子の役割

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透，田中三津子，此枝 義記，

三浦 玲子，内田 泰至，川村 明夫

北里大 外科 高橋 禎人，柿田 章

ラット discordant 異種肝移植における遅延型拒絶反応の免疫学組織学的検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 田中三津子，玉置 透，此枝 義記，

内田 泰至，海津 貴史，川村 明夫

/

腎虚血再灌流障害における H0-1 阻害剤の保護効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史，玉置 透，田中三津子，

内田 泰至，増子 佳弘，村井 紀元，  
此枝 義記，三浦 玲子，川村 明夫  
北里大 外科 柿田 章

OK432 投与による Heme Oxygenase-1 (H0-1) の発現とラット肝温阻血傷害に対する効果 - viability を指標にした検討 -

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 有倉 潤，此枝 義記，玉置 透，  
田中三津子，横田 亘弘，川村 明夫

Hemin 投与による抗酸化ストレス蛋白 Heme Oxygenase の誘導発現とラット肝虚血再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 内田 泰至，玉置 透，田中三津子，

海津 貴史，此枝 義記，横田 亘弘，  
川村 明夫  
北里大 外科 柿田 章

・第 86 回日本消化器病学会総会（平成 12 年 4 月 20～22 日 = 新潟）

当院における炎症性腸疾患に対する Finecell filter を用いた白血球除去療法 (LCAP) の治療効果

札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子，斎藤 雅雄

術後 11 年目に肝転移をきたした胃原発悪性 GIST の一例

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之，横山 朗子，大石 正枝，  
依田 有生，大泉 弘子，斎藤 雅雄

・第 49 回日本臨床衛生検査学会（平成 12 年 5 月 11，12 日 = 沖縄）

〔シンポジウム〕白血病と幹細胞移植における遺伝子検査

札幌北榆病院 検査科 三浦 玲子

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

F C Mによる3カラー細胞内染色の有用性：白血病における病型分類

札幌北榆病院 検査科 佐藤 壯，横田 亘弘，三浦 玲子，  
此枝 義記

- ・第39回日本エム・イー学会大会（平成12年5月17～19日＝東京）  
〔日韓合同セッション〕Immunomodulation by apheresis in immune diseases  
札幌北榆病院 外科 米川 元樹

- ・第17回日本呼吸器外科学会総会（平成12年5月25，26日＝徳島）  
嚢胞性肺疾患手術におけるヘリカルスキャン三次元CT画像の有用性  
札幌北榆病院 呼吸器科・気胸センター 本田 哲史

- ・第48回日本輸血学会総会（平成12年5月25～27日＝神戸）  
〔シンポジウム〕同種末梢血幹細胞移植  
札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

同種移植後に併発した thrombotic microangiopathy (TMA) に対し超大量輸血療法を併用することでTMAが治癒した慢性骨髄性白血病症例

札幌北榆病院 内科 直原 徹，加藤菜穂子，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，比嘉 敏夫，笠井 正晴

- ・第59回日本消化器内視鏡学会総会（平成12年5月29～31日＝京都）  
造血幹細胞移植後の上部，下部消化管内視鏡検査による腸管GVHDの検討  
札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子，横山 朗子，大石 正枝，  
依田 有生，川村 直之，斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 内科 直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

維持透析患者に於ける大腸疾患の検討 - 特に急性出血性直腸潰瘍 (AHRU) について -

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之, 横山 朗子, 大石 正枝,  
依田 有生, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 内科 直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

白血病の治療経過中に消化管穿孔をきたした3例の検討

札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子, 大石 正枝, 依田 有生,  
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 内科 直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第23回日本気管支学会総会(平成12年6月8,9日=横浜)

気腫性嚢胞性肺疾患手術におけるヘリカルスキャン三次元CT画像の有用性  
札幌北榆病院 呼吸器科・気胸センター 本田 哲史

- ・第9回腎不全外科研究会(平成12年6月10,11日=名古屋)

血液透析患者に合併した原発性肝癌の検討

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 久木田和丘, 目黒 順一,  
有倉 潤, 村井 紀元, 海津 貴史,  
内田 泰至, 飯田 潤一, 堀江 卓,  
田中三津子, 玉置 透, 米川 元樹,  
川村 明夫

維持透析患者の術前透析

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫, 沼澤 理絵, 森本 佳子  
札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

/

- ・第20回日本アフェレシス学会学術大会(平成12年6月10,11日=幕張)

〔シンポジウム〕健康保険請求の簡素化

札幌北榆病院 川村 明夫

〔シンポジウム〕サイタフェレシスによる体外免疫調節

札幌北榆病院 米川 元樹, 川村 明夫, 斎藤 雅雄

〔シンポジウム〕 Bridge Use としての人工肝補助療法

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，有倉 潤，海津 貴史，  
村井 紀元，内田 泰至，飯田 潤一，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

〔シンポジウム〕 Critical Care における血液浄化法の適応と限界

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，目黒 順一，有倉 潤，  
海津 貴史，村井 紀元，内田 泰至，  
飯田 潤一，増子 佳弘，田中三津子，  
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

非穿刺型ブラッドアクセスと接続カニューレの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫，米川 元樹，  
久木田和丘，

目黒 順一，玉置 透，田中三津子，  
堀江 卓，増子 佳弘，内田 泰至，  
飯田 潤一，村井 紀元，海津 貴史，  
有倉 潤，阿部 博

健常ドナーに対する G-CSF 投与後のアフェレシス採取細胞の解析

札幌北榆病院 内科 山口 薫子，加藤菜穂子，小川 貴史，  
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，  
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

劇症肝炎により急速に肝萎縮をきたし，移植までアフェレシスで維持した症例の  
検討

札幌北榆病院 臨床工学技士 土濃塚広樹  
札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫  
札幌北榆病院 外科 久木田和丘，玉置 透，目黒 順一，  
米川 元樹，川村 明夫

〔ワークショップ〕ブラッドアクセスインターベンション治療 (BAIVT) における放射線追加療法

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 増子 佳弘, 米川 元樹,  
川村 明夫

〔イブニングセミナー〕機能向上への留置カテーテルの工夫とその評価

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 久木田和丘

非穿刺型ブラッドアクセス及び非穿刺型ブラッドアクセス接続カニューレアセンブリの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫, 久木田和丘,  
米川 元樹,

目黒 順一, 玉置 透, 田中三津子,  
堀江 卓, 増子 佳弘, 飯田 潤一

高吸水性ポリマーを用いた水分管理の可能性

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹, 川村 明夫, 久木田和丘,

田中三津子, 玉置 透, 目黒 順一

硬化性被嚢性腹膜炎における治療経験

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 久木田和丘, 目黒 順一,  
有倉 潤, 村井 紀元, 海津 貴史,  
内田 泰至, 飯田 潤一, 堀江 卓,  
田中三津子, 玉置 透, 米川 元樹,  
川村 明夫

維持透析患者の術前体重変化

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫, 沼澤 理絵, 森本 佳子  
札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

独居生活の通院透析者に対する看護援助の一考察

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 藤田真理子, 寺原 知恵,  
阿部 博,

栗坪 睦子, 久木田和丘, 米川 元樹,  
川村 明夫



透析患者の家族を援助して - 現状の理解と今後の関わり方の考察 -

札幌北榆病院 療養情報センター 山田美砂子, 岩田 和江, 星 奈美

江

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・厚生省がん研究「非血縁者間の同種血液幹細胞移植法による悪性腫瘍の治療率向上に関する研究」班

平成 12 年度第 1 回研究班会議 (平成 12 年 6 月 17 日 = 名古屋)

健常人ドナーに対する G-CSF 動員細胞不足症例の検討

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 笠井 正晴

・第 36 回日本肝癌研究会 (平成 12 年 6 月 22, 23 日 = 東京)

長期生存中の非手術症例の検討 - その 2 -

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 有倉 潤, 村井 紀元,  
海津 貴史, 内田 泰至, 飯田 潤一,  
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,  
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,  
川村 明夫

/

・第 55 回日本消化器外科学会総会 (平成 12 年 7 月 20 ~ 22 日 = 宮崎)

腸閉塞を発症した硬化性被嚢性腹膜炎 (SEP) の外科治療

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 久木田和丘, 有倉 潤,  
海津 貴史, 村井 紀元, 内田 泰至,  
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
田中三津子, 玉置 透, 米川 元樹,  
川村 明夫

・第 21 回日本臨床栄養協会総会・学術講演会 (平成 12 年 7 月 22 日 = 札幌)

骨髄移植を含む化学療法時の無菌食管理の実際

札幌北榆病院 栄養課 古川 栄子

- ・第1回日本検査血液学会学術集会（平成12年7月22～23日＝東京）

核酸増幅検査法で核酸抽出に用いる細胞分画による検出の違い

札幌北榆病院 検査科 三浦 玲子，佐藤 壮，横田 亘弘

- ・日本医工学治療学会第15回学術大会（平成12年8月25，26日＝札幌）

〔ワークショップ〕Interventional Angioplasty とその開存率向上をめざして

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，増子 佳弘，米川 元樹，

有倉 潤，村井 紀元，土橋誠一郎，

海津 貴史，飯田 潤一，堀江 卓，

田中三津子，玉置 透，目黒 順一，

川村 明夫

透析人間ドックの試みから

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 大西 史浩，三上 春美，

中山 昌，

若林マリア，寺嶋 恵子，久木田和丘，

米川 元樹，川村 明夫

消毒剤による配管洗浄効果の検討

札幌北榆病院 臨床工学技士 伊藤 憲史，住田 知規，小塚 麻

紀，

土濃塚広樹

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

麻酔器用センサーダミー回路の作製，使用

札幌北榆病院 看護部 鶴谷 敬之，田島 恵子，那須野優美，

清信 一貴，土濃塚広樹

札幌北榆病院 麻酔科 沼澤 理絵，中尾 康夫

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

- ・第4回日本気胸学会総会（平成12年9月8，9日＝東京）

〔シンポジウム〕Giant Bulla の治療における三次元CT画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科・気胸センター 本田 哲史

・第38回日本人工臓器学会大会（平成12年9月27～29日＝四日市）

〔シンポジウム〕人工臓器による重症肝不全の治療戦略

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，増子 佳弘，堀江 卓，  
田中三津子，玉置 透，久木田和丘，  
米川 元樹，川村 明夫

非穿刺型ブラッドアクセス及び非穿刺型ブラッドアクセス接続カニューレアッセ  
ンブリの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫，米川 元樹，  
久木田和丘，

目黒 順一，玉置 透，田中三津子，  
堀江 卓，増子 佳弘，飯田 潤一，  
村井 紀元，海津 貴史，有倉 潤

ブラッドアクセストラブル頻発例に対する開存率向上への試み

札幌北榆病院 外科 米川 元樹，久木田和丘，増子 佳弘，  
有倉 潤，村井 紀元，土橋誠一郎，  
海津 貴史，飯田 潤一，堀江 卓，  
田中三津子，玉置 透，目黒 順一，  
川村 明夫

血液透析用スライド型ダブルルーメンカテーテルの使用経験

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，増子 佳弘，有倉 潤，  
村井 紀元，土橋誠一郎，海津 貴史，  
飯田 潤一，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

・第21回日本臨床薬理学会年会（平成12年9月28，29日＝札幌）

モノクローナル抗体 FPIA 法によるシクロスポリン血中濃度の評価

北海道薬科大 臨床薬物動態学 黒澤菜穂子，平山 理恵，戸田 貴  
大，

大和田栄治  
札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透

・第11回日本急性血液浄化学会(平成12年10月5,6日=横浜)

[シンポジウム]急性肝不全に対する各種血液浄化法の適応と限界

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 有倉 潤, 村井 紀元,  
土橋誠一郎, 海津 貴史, 飯田 潤一,  
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,  
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,  
川村 明夫

/

無菌室における急性血液浄化

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 久木田和丘, 有倉 潤,  
村井 紀元, 土橋誠一郎, 海津 貴史,  
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
田中三津子, 玉置 透, 目黒 順一,  
川村 明夫  
札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫

急性血液浄化における臨床工学技士の役割 - 2年間でふりかえり -

札幌北榆病院 臨床工学技士 土濃塚広樹, 那須野優美, 清信 一  
貴,

鶴谷 敬之  
札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第36回日本移植学会総会(平成12年10月11~13日=岐阜)

腎移植直後に発症した巣状糸球体硬化症(FSGS)再発腎炎に対する  
Leukocytapheresis(LACP)の試み

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 村井 紀元,  
海津 貴史, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

腎移植の合併症に対する Cryofiltration (CRYO) の応用

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 村井 紀元,  
海津 貴史, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

ハーモニックスカルペルを使用した後腹膜鏡補助下ドナー腎摘出術

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 目黒 順一, 玉置 透,  
海津 貴史, 村井 紀元, 堀江 卓,  
田中三津子, 久木田和丘, 米川 元樹,  
川村 明夫

ラット小腸温阻血再灌流傷害における L-Glutamine の効果 : Heme Oxygenase-1 の誘導とアポトーシスの抑制

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 増子 佳弘, 玉置 透, 海津 貴史,  
村井 紀元, 田中三津子, 川村 明夫

腎虚血再灌流傷害における HO-1 阻害剤の保護効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史, 玉置 透, 田中三津子,  
増子 佳弘, 村井 紀元, 川村 明夫  
北里大 外科 柿田 章

Hemin 投与による Heme Oxygenase-1 の誘導発現と肝虚血再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 内田 泰至, 玉置 透, 田中三津子,  
海津 貴史, 川村 明夫  
北里大 外科 佐藤 光史, 柿田 章

・第 38 回日本癌治療学会総会 (平成 12 年 10 月 22~24 日 = 仙台)

WT1 アンチセンスオリゴヌクレオチドと化学療法剤の併用による白血病細胞の増殖抑制

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 平林 鑑, 近藤 恵一,  
山口 薫子, 小川 貴史, 小林 直樹,

木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

転移性乳癌（MBC）に対するDoxorubicin (A), Docetaxel (T) 併用療法（AT療法）  
の経験

札幌北榆病院 内科 近藤 恵一，平林 鑑，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

・第42回日本消化器病学会大会（平成12年10月25～27日＝神戸）

当院における潰瘍性大腸炎に対する Finecell filter を用いた白血球除去療法  
(LCAP)の治療経験 - 第二報 -

札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子，斎藤 雅雄，横山 朗子，  
大石 正枝，依田 有生，川村 直之  
札幌北榆病院 外科 米川 元樹，川村 明夫

ヘリコクターピロリ陰性消化性潰瘍の検討

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之，鎌田 豪，中井 義仁，  
加藤 寛士，大泉 弘子，斎藤 雅雄

・日本臨床麻酔学会第20回大会（平成12年10月25～27日＝佐賀）

維持透析患者の術前体重管理

札幌北榆病院 麻酔科 沼澤 理絵，中尾 康夫

・第60回日本消化器内視鏡学会総会（平成12年10月25～28日＝神戸）

腹腔鏡で診断し得た，Chlamydia Trachomatis が原因と考えられた腹膜炎の4例

札幌北榆病院 消化器科 加藤 寛士，鎌田 豪，中井 義仁，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

・第4回アクセス研究会（平成12年10月29日＝豊中）

タバチエール内シャントは内シャント寿命を延長するか

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 増子 佳弘, 有倉 潤,  
村井 紀元, 土橋誠一郎, 海津 貴史,  
飯田 潤一, 堀江 卓, 田中三津子,  
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

/

- ・第40回血液成分治療研究会(平成12年11月7日=倉敷)

健全人における G-CSF 動員細胞の経時的変化の解析

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 菅 正之, 近藤 恵一,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

- ・第42回日本臨床血液学会総会(平成12年11月8~10日=倉敷)

同種末梢血幹細胞移植時の幹細胞動員不良例の検討

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫, 近藤 恵一, 山口 薫子,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 笠井 正晴

気管原発形質細胞腫の1例

札幌北榆病院 内科 木山 善雄, 近藤 恵一, 山口 薫子,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

当科で経験した Granulocytic sarcoma の検討

札幌北榆病院 内科 小川 貴史, 近藤 恵一, 山口 薫子,  
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第27回日本低温医学会総会(平成12年11月22, 23日=東京)

[シンポジウム] Keynote address: 造血細胞移植併用の癌治療: モデルとしての  
悪性リンパ腫

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

〔ワークショップ〕ラットの小腸における L-Glutamine 誘導性 Heme Oxygenase-1 とアポトーシスの検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 増子 佳弘, 玉置 透, 田中三津子,

土橋誠一郎, 海津 貴史, 村井 紀元,  
川村 明夫

・厚生省がん研究「非血縁者間の同種血液幹細胞移植法による悪性腫瘍の治療向上に関する研究」班 平成 12 年度第 2 回研究会議 (平成 12 年 11 月 25 日 = 名古屋)

PBSCC 後の BM 採取の検討

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 笠井 正晴

・第 23 回日本造血細胞移植学会総会 (平成 12 年 12 月 8, 9 日 = 京都)

MDS に対する同種造血幹細胞移植成績の検討

札幌北榆病院 血液内科 小林 直樹, 平林 鑑, 近藤 恵一,  
山口 薫子, 小川 貴史, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

WT1 の定量化による造血幹細胞移植後の微少残存病変のモニタリング

札幌北榆病院 血液内科 小笠原正浩, 近藤 恵一, 山口 薫子,  
小川 貴史, 小林 直樹, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

移植後慢性 GVHD 発症例での肺機能の検討

札幌北榆病院 血液内科 山口 薫子, 近藤 恵一, 小川 貴史,  
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,  
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴  
札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

同種造血幹細胞移植患者のオリエンテーション書式の改善 - クリティカルパスと患者用パンフレットの見直し -



札幌北榆病院 造血細胞移植センター看護部 草島 千晶，川村  
智美，北村美奈子，

安達 るり

札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

同種造血幹細胞移植の無菌簡易化の検討

札幌北榆病院 造血細胞移植センター看護部 川村 智美，草島  
千晶，北村美奈子，

安達 るり

札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

/  
地方会

平成 12 年

- ・ 第 139 回家庭医学講座（平成 12 年 1 月 29 日 = 札幌）

〔個人相談コーナー講師〕糖尿病性腎不全患者の下肢動脈閉塞について

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 久木田和丘

- ・ 第 214 回日本内科学会北海道地方会（平成 12 年 2 月 5 日 = 札幌）

同種骨髄移植後、重症 MRSA 皮下膿瘍をクリアした Schizophrenia 加療中の AML  
症例

札幌北榆病院 内科 加藤菜穂子，山口 薫子，小川 貴史，

小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，

直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

- ・ 第 72 回北海道外科学会（平成 12 年 2 月 12 日 = 札幌）

腸閉塞を来した小腸血管腫の 1 例

札幌北榆病院 外科 有倉 潤，目黒 順一，村井 紀元，

海津 貴史，内田 泰至，飯田 潤一，

増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，

玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，

川村 明夫

- ・第25回札幌市医師会医学会（平成12年2月20日＝札幌）

二次性上皮小体機能亢進症症例の検討

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，久木田和丘，有倉 潤，  
村井 紀元，海津 貴史，内田 泰至，  
飯田 潤一，増子 佳弘，田中三津子，  
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

Gibbon ape leukemia virus receptor を介した造血幹細胞への遺伝子導入

札幌北榆病院 内科 小川 貴史，加藤菜穂子，山口 薫子，  
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，  
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

睡眠時無呼吸症候群に対するコンピュータ通信を介した終夜睡眠ポリグラフ検査

札幌北榆病院 スリープ外来 中尾 康夫，米川 元樹

- ・第12回北海道癌化学療法研究会（平成12年3月4日＝札幌）

転移性乳癌（MBC）に対する Doxorubicin (A) Docetaxel (T) 併用療法（AT療法）  
の経験

札幌北榆病院 内科 木山 善雄，加藤菜穂子，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

- ・第2回北海道遺伝子治療研究会（平成12年3月11日＝札幌）

組換えレトロウイルスによる多剤耐性遺伝子の造血幹細胞への導入と発現

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩

- ・第35回日本血液学会北海道地方会（平成12年4月22日＝札幌）

CML 非血縁者間骨髄移植における免疫抑制療法の検討

札幌北榆病院 内科 山口 薫子，平林 鑑，近藤 恵一，

加藤菜穂子，小川 貴史，小林 直樹，  
小笠原正浩，木山 善雄，直原 徹，  
比嘉 敏夫，笠井 正晴

ALL に対する同種造血幹細胞移植成績の検討

札幌北榆病院 内科 近藤 恵一，平林 鑑，加藤菜穂子，  
山口 薫子，小川 貴史，小林 直樹，  
小笠原正浩，木山 善雄，直原 徹，  
比嘉 敏夫，笠井 正晴

CML に対してインターフェロンにより完全細胞遺伝学的効果の得られた一症例

札幌北榆病院 内科 平林 鑑，近藤 恵一，加藤菜穂子，  
山口 薫子，小川 貴史，小林 直樹，  
小笠原正浩，木山 善雄，直原 徹，  
比嘉 敏夫，笠井 正晴

・第 1 回細胞療法研究会（平成 12 年 5 月 13 日 = 札幌）

移植後超大量 FFP 製剤投与により TMA をクリアした CML 症例

札幌北榆病院 内科 直原 徹

・第 57 回北海道透析療法学会（平成 12 年 5 月 28 日 = 札幌）

二次性上皮小体機能亢進症に対する calcitriol 静脈内投与の効果

札幌北榆病院 外科 飯田 潤一，久木田和丘，有倉 潤、  
海津 貴史，村井 紀元，内田 泰至，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

当院におけるパーマントカテーテルの使用経験

札幌北榆病院 臨床工学技士 那須野優美，田島 恵子，土濃塚広  
樹，

鶴谷 敬之

札幌北榆病院 外科 久木田和丘

/

- ・第75回日本呼吸器学会北海道地方会（平成12年6月3日＝札幌）

自然気胸手術における3D-HRCT画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科・気胸センター 本田 哲史

- ・第11回北海道造血細胞移植研究会（平成12年6月3日＝札幌）

白血病症例に対するallo-PBSCTの移植成績の検討

札幌北榆病院 内科 近藤 恵一，平林 鑑，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

同種幹細胞移植患者用クリティカルパスの導入と評価 - 患者からのアンケート調査より -

札幌北榆病院 造血細胞移植センター看護部 佐藤亜由美，草島  
千晶，川村 智美，  
北村美奈子，安達 るり  
札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

- ・第86回日本消化器病学会北海道支部例会（平成12年6月3日＝札幌）

アフエーシスで肝移植まで維持しえた劇症肝炎の1例

札幌北榆病院 外科 有倉 潤，目黒 順一，村井 紀元，  
海津 貴史，飯田 潤一，内田 泰至，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

小腸穿孔を合併した悪性リンパ腫の1例

札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁，大泉 弘子，鎌田 豪，  
加藤 寛士，川村 直之，斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 内科 山口 薫子，小川 貴史，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

- ・第 80 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会（平成 12 年 6 月 4 日 = 札幌）

下行結腸静脈瘤の 1 例

札幌北榆病院 消化器科 加藤 寛士，鎌田 豪，中井 義仁，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄  
水島胃腸科クリニック 水島 和雄

Heater Probe 焼灼にて止血しえた Vascular Ectasia の 2 例

札幌北榆病院 消化器科 鎌田 豪，中井 義仁，加藤 寛士，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

- ・第 215 回日本内科学会北海道地方会（平成 12 年 6 月 10 日 = 札幌）

胃印環細胞癌の回盲部転移の一例

札幌北榆病院 消化器科 鎌田 豪，中井 義仁，加藤 寛士，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

Hepatosplenic g-d-T cell lymphoma の 1 例

札幌北榆病院 内科 平林 鑑，近藤 恵一，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

- ・第 1 回臨床血液談話会（平成 12 年 6 月 10 日 = 札幌）

多発性骨髄腫に対する自家造血幹細胞移植の検討

札幌北榆病院 内科 近藤 恵一

- ・第 4 回北海道臓器移植フォーラム（平成 12 年 6 月 17 日 = 札幌）

アミノ基供与体の前投与時のラット小腸温虚血耐性；ストレス蛋白質と抗アポトーシス物質の誘導

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透，増子 佳弘，  
田中三津子，

海津 貴史，村井 紀元，川村 明夫

腎移植における種々の apheresis 技術の応用

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 有倉 潤,  
飯田 潤一, 村井 紀元, 海津 貴史,  
増子 佳弘, 堀江 卓, 久木田和丘,  
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 16 回西十勝プライマリーケア研究会 (平成 12 年 6 月 23 日 = 鹿追)

〔特別講演〕呼吸器疾患の診断・治療における胸腔鏡の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

- ・第 59 回腸疾患研究会 (平成 12 年 7 月 1 日 = 札幌)

下行結腸静脈瘤の 1 例

札幌北榆病院 消化器科 加藤 寛士, 鎌田 豪, 中井 義仁,  
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄  
水島胃腸科クリニック 水島 和雄

- ・横須賀共済病院 呼吸器講演会 (平成 12 年 7 月 6 日 = 横須賀)

〔講演〕呼吸器診療における胸腔鏡の有用性について

札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

- ・再生つばさの会北海道支部総会・シンポジウム (平成 12 年 7 月 8 日 = 札幌)

〔講演〕成人再生不良性貧血の治療について

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫

/

- ・第 1 回北海道急性血液浄化研究会 (平成 12 年 7 月 8 日 = 札幌)

〔講演〕劇症肝炎に対する血漿交換の現状

札幌北榆病院・外科 目黒 順一

- ・第 12 回北海道腎移植談話会 (平成 12 年 7 月 8 日 = 札幌)

〔パネルディスカッション〕糖尿病性腎症の献腎移植症例

札幌北榆病院 外科 田中三津子，玉置 透，土橋誠一郎，  
有倉 潤，飯田 潤一，村井 紀元，  
海津 貴史，増子 佳弘，堀江 卓，  
久木田和丘

セルセプト投与後に全身関節痛が出現した生体腎移植症例

札幌北榆病院 外科 飯田 潤一，玉置 透，田中三津子，  
土橋誠一郎，有倉 潤，村井 紀元，  
海津 貴史，増子 佳弘，堀江 卓，  
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

腎虚血再灌流傷害におけるHSPの役割

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史，玉置 透，田中三津子，  
土橋誠一郎，増子 佳弘，村井 紀元，  
川村 明夫

〔パネルディスカッション〕服薬指導に苦慮した事例についての一考察

札幌北榆病院 第6病棟 川島有美子，疍崎 令恵，成田 円，  
鈴木 雅永，栗坪 睦子

・第1回北海道病院学会（平成12年7月8日＝札幌）

継続看護における効果的な記録とは

札幌北榆病院 6病棟 高橋 直美

輸血申し込み伝票変更による意識の変化

札幌北榆病院 検査科 横田 亘弘

・第11回北海道CAPD談話会（平成12年8月5日＝札幌）

腹壁の減張切開を要した硬化性被嚢性腹膜炎（SEP）の一手術症例

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，久木田和丘，有倉 潤，

村井 紀元，土橋誠一郎，海津 貴史，  
飯田 潤一，増子 佳弘，堀江 卓，  
田中三津子，玉置 透，米川 元樹，  
川村 明夫

/

- ・第73回北海道外科学会（平成12年9月2日＝旭川）

ハーモニックスカルペル（LCS）を使用した後腹膜鏡補助下ドナー腎摘出術の検  
討

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘，目黒 順一，玉置 透，  
有倉 潤，土橋誠一郎，海津 貴史，  
村井 紀元，飯田 潤一，堀江 卓，  
田中三津子，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

腹壁外巨大繊維脂肪腫の1例

札幌北榆病院 外科 有倉 潤，目黒 順一，土橋誠一郎，  
村井 紀元，海津 貴史，飯田 潤一，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

- ・第48回北海道麻酔学会（平成12年9月2日＝札幌）

麻酔導入後に著明な低酸素血症を呈した巨大後腹膜腫瘍の一症例

札幌北榆病院 麻酔科 沼澤 理絵，中尾 康夫

- ・第216回日本内科学会北海道地方会（平成12年9月2日＝札幌）

稀な染色体異常  $t(X;5)(q26;q13)$  を伴った Mixed lineage leukemia の1例

札幌北榆病院 内科 平林 鑑，山口 薫子，近藤 恵一，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴



- ・第9回北海道透析骨関節障害談話会（平成12年9月16日＝札幌）

腎性上皮小体機能亢進症術後PTH低下不良症例の検討

札幌北榆病院 外科 飯田 潤一，久木田和丘，有倉 潤，  
土橋誠一郎，海津 貴史，村井 紀元，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

- ・札幌北榆病院じん肺交友会主催第2回じん肺患者・学習交流会（平成12年9月29日＝札幌）

〔講演〕身体障害者福祉法について

札幌北榆病院 療養情報センター 岩田 和江

- ・第87回日本消化器病学会北海道支部例会（平成12年9月30日＝札幌）

肝癌との鑑別を要した炎症性肝偽腫瘍の1例

札幌北榆病院 消化器科 加藤 寛士，鎌田 豪，中井 義仁，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

- ・第44回日本輸血学会北海道支部例会（平成12年9月30日＝札幌）

高齢者よりの末梢血造血幹細胞採取の検討

札幌北榆病院 内科 平林 鑑，近藤 恵一，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

赤血球製剤申込伝票変更後のMAP運用状況

札幌北榆病院 輸血部 豊澤 悠子，禿 蘭子，小矢奈々美，  
佐藤 壮，三浦 玲子，横田 亘弘，  
尾下 公人，直原 徹，笠井 正晴

- ・第81回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会（平成12年10月1日＝札幌）

Helicobacter pylori 除菌後も治癒しなかった PPI 抵抗性胃潰瘍の 1 例

札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁, 大泉 弘子, 鎌田 豪,  
加藤 寛士, 川村 直之, 斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

Rabeprazole (RPZ), Amoxicillin (AMPC), Clarithromycin (CAM) による  
Helicobacter pylori 除菌療法で出血性大腸炎をきたした 1 症例

札幌北榆病院 消化器科 鎌田 豪, 中井 義仁, 加藤 寛士,  
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

・第 42 回日本臨床血液学会北海道地方会 (平成 12 年 10 月 7 日 = 札幌)

〔シンポジウム〕高齢者 AML に対する細胞療法の検討

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 平林 鑑, 近藤 恵一,  
山口 薫子, 小川 貴史, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

CAG 療法が奏効した治療抵抗性 MDS の二症例

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 平林 鑑, 近藤 恵一,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

重症再生不良性貧血に対する ATG 療法

札幌北榆病院 内科 近藤 恵一, 平林 鑑, 山口 薫子,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

/

全国骨髄バンク推進連絡協議会 10 周年記念・医療後援会 (平成 12 年 10 月 15 日 = 秋田)

〔公開座談会〕血液疾患に対する移植療法

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

- ・市民健康教育講座（平成 12 年 10 月 25 日 = 札幌）

骨粗鬆症の予防

札幌北榆病院 整形外科 東 輝彦

- ・第 217 回日本内科学会北海道地方会（平成 12 年 10 月 28 日 = 札幌）

悪性リンパ腫の経過中に併発した赤芽球癆

札幌北榆病院 内科 菅 正之，近藤 恵一，山口 薫子，  
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，  
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫，  
笠井 正晴

- ・第 20 回日本アフェレシス学会北海道地方会（平成 12 年 10 月 28 日 = 札幌）

敗血症に対するエンドトキシン吸着療法（PMX）

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，玉置 透，有倉 潤，  
土橋誠一郎，海津 貴史，村井 紀元，  
飯田 潤一，増子 佳弘，田中三津子，  
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

生体腎移植後に発症した巣状糸球体硬化症再発腎炎（FSGS）に対する  
Leukocytapheresis（LCAP）の有用性 札幌北榆病院 外科 飯田 潤一，田中  
三津子，玉置 透，

土橋誠一郎，有倉 潤，村井 紀元，  
海津 貴史，増子 佳弘，堀江 卓，  
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

白血球除去療法（LCAP）が著効したと考えられる難治性重症型潰瘍性大腸炎の 1  
例

札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁，鎌田 豪，加藤 寛士，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄  
札幌北榆病院 外科 米川 元樹，川村 明夫

抗リン脂質抗体症候群による静脈血栓に対する Cryofiltration の検討

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 平林 鑑, 近藤 恵一,  
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,  
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,  
笠井 正晴

/

・第13回北海道腎移植談話会(平成12年11月11日=札幌)

FSGS 再発腎炎に対する leukocytapheresis の応用

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 有倉 潤,  
土橋誠一郎, 村井 紀元, 海津 貴史,  
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

生体腎提供後, 膀胱癌が発見されたドナー例

札幌北榆病院 外科 堀江 卓, 玉置 透, 田中三津子,  
有倉 潤, 土橋誠一郎, 村井 紀元,  
海津 貴史, 飯田 潤一, 増子 佳弘,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

尿毒症性神経症に対する腎移植例

札幌北榆病院 外科 村井 紀元, 玉置 透, 田中三津子,  
有倉 潤, 土橋誠一郎, 海津 貴史,  
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,  
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,  
川村 明夫

自己管理援助におけるコミュニケーションの一考察

札幌北榆病院 6病棟 岡元 由紀, 成田 円, 源川 裕乃,  
川島有美子, 鈴木 雅永, 栗坪 睦子

透析再導入した患者に対するレシピエントコーディネーターとしての関わり

札幌北榆病院 療養情報センター 星 奈美恵

- ・第58回北海道透析療法学会（平成12年11月12日＝札幌）

〔シンポジウム〕慢性透析患者の敗血症に対するエンドトキシン吸着療法（PMX）

- 特に周術期における効果と限界 -

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，堀江 卓，有倉 潤，  
土橋誠一郎，海津 貴史，村井 紀元，  
飯田 潤一，増子 佳弘，田中三津子，  
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，  
川村 明夫

二次性上皮小体機能亢進症に対する oxarol 静脈内投与の効果

札幌北榆病院 外科 有倉 潤，久木田和丘，土橋誠一郎，  
村井 紀元，海津 貴史，飯田 潤一，  
増子 佳弘，堀江 卓，田中三津子，  
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，  
川村 明夫

/

他病院との患者連絡方法の検討 - 看護の統一に向けて -

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 杉森 輝二，吉岡麻伊子，  
佐藤 篤子，  
松野 智，酒井 清恵，藤田真理子，  
久木田和丘

- ・第6回北海道レジデントカンファレンス（平成12年11月25日＝札幌）

消化管病変が認められた原発性アミロイドーシスの一例

札幌北榆病院 消化器科 鎌田 豪，中井 義仁，加藤 寛士，  
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

## 院内講演会報告

- ・日本代替・相補・伝統医療連合会議 第1回北海道支部会議(平成12年1月22日)

講演1「世界における代替・相補・伝統医療の現況」

日本代替・相補・伝統医療連合会議会長

東京大学名誉教授 渥美 和彦

講演2「西洋医学よりみた気功」

東京女子医科大学 教授 阿岸 鉄三

討論会「健康に生きるためには」

- ・第8回北榆セミナー(平成12年10月6日)(札幌北榆病院・ファイザー製薬(株) 共催)

特別講演「同種細胞療法と樹状細胞療法」

国立がんセンター中央病院 特殊病棟部医長 高上 洋一

## 各部門報告

### 特定医療法人北榆会 札幌北榆病院

特定医療法人北榆会札幌北榆病院は 1985 年に創立され、その特色は最新の医療技術、設備を保有し、高度先進医療を積極的に推し進め、医の倫理に基づき患者さんの権利を尊重した医療を行っています。また、造血細胞移植センター、人工臓器治療センター、及び人工臓器・移植・遺伝子治療研究所を併設し、診療のみならず医学研究部門の充実を図っています。また、病院として北大医学部 6 年生の臨床実習研修施設として、また、卒後 2 年間のローテーションの研修病院としての協力も行っていきます。

### 病院概要

診療科目：外科、内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、小児科、整形外科、  
眼科、歯科、放射線科、麻酔科

病床数：222 床

設備：造血細胞移植センター

無菌室：class 100 / 4 室、1,000 / 7 室、10,000 / 10 室

人工臓器治療センター

人工透析、血液浄化部門

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

動物実験室、細胞培養設備、遺伝子治療研究室 (P2 レベル)

認定・指定研修施設になっている学会：

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本透析医学会、

日本内科学会、日本血液学会、日本輸血学会、日本消化器病学会、

日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本麻酔学会、

非血縁者間骨髄移植認定施設

/

### 外科

当院外科も 16 年目となり、いよいよ 21 世紀に突入した。20 世紀最後の年は、次世紀への飛躍を期して、全員が一所懸命に頑張ってきた。その甲斐があって、2002 年から 2003 年にかけて、4 つの学会・研究会が当院の担当で開催される事となった。

まず、2002 年 6 月には日本アフェレシス学会学術大会が、さらに同年 10 月には日本人工臓器学会大会が、いずれも川村理事長を会長として開催される。特に後者は、民間病院として初の担当であり、大変名誉な事である。両学会ともに、全国学会として名高く、当院の実力が認められたものと、素直に喜ぶたい。

一方、2002年10月に久木田センター長の会長によるブラッドアクセス研究会が、また、2003年5月に米川院長の会長による日本医工学治療学会学術大会が、引き続き開催される。1年間に4つの学会を担当するために、猛烈に忙しくなると思われるが、全職員が一丸となって、成功に向けて頑張りたいと考えている。諸兄の御協力を心よりお願い申し上げます。

2000年の1年間を振り返ると、手術件数は895例であり、その内全身麻酔件数は516件であった。内訳は、食道癌2例、胃切除術41例、結腸・直腸癌65例、胆石症84例（腹腔鏡下胆嚢摘出79例）、膵頭十二指腸切除術7例、肝切除数例、生体腎移植4例、など多彩であり、この他に、血液透析関連のブラッドアクセス系手術が242例あり、まさにバラエティーに富んだ内容である。当科の研修医は、北大一外、旭川医大二外、北里大外科、昭和大大外科からの派遣であり、慣れない分野に戸惑いながらも、実り多い研修を続けている。

学会活動も盛んで、2000年は学会発表が、国際学会で2件、全国学会で35件、地方会で20件行われた。さらに、論文も邦文で17本が上梓された。

勿論、勉強ばかりしている訳ではなく、例年の遊び系行事もしっかりこなしている。歓送迎会、海水浴キャンプ、バーベキュー大会、忘年会、餅つき大会などがあり、さらに動物慰霊祭も行っている。

以上のごとく、大変活発に活動しているが、21世紀には更なる飛躍を遂げるため、主催学会の成功をバネにして、新しい外科学の役割を考えたいと思う。

（副院長 外科 目黒順一）

## 血液内科

血液内科の医師数は9名が常勤しています。診療体制は複数制の3グループからなり、グループ診療を行っています。病床数は80~90で、白血病、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、骨髄腫、リンパ腫などの造血器疾患に対して化学療法を行っています。また、非血縁者間骨髄移植の認定施設となっており、造血幹細胞移植数は年間30~40症例であり、全国でも有数の施設です。造血細胞移植センターには、無菌室がClass 100 4室、Class 1,000 7室、Class 10,000 10室の計21室を装備し、移植のみならず、好中球減少状態にある患者の感染リスクを減らし、より安全な治療および移植を行っています。JALSG (Japan Adult Leukemia Study Group)、LSG (Lymphoma Study Group)、非血縁者間骨髄移植の各グループに参加しており、血液疾患治療を積極的に行っています。一方、胚細胞腫瘍、乳癌などの固形癌に対しても自家移植併用大量化学療法を行っており、従来の化学療法に優る治療成績を上げています。血液の病理組織診断や組織培養、遺伝子解析を行っており、併設している人工臓器・移植・遺伝子治療研究所ではP2レベルの実験室で遺伝子導入実験を開始しています。幹細胞マーカーや移植時の移植片対宿主病の研究も行い、臨床研究を併せ行っています。日本血液学会、日本輸血学会の認定施設となっており、血液後期レジデント制



(卒後3~5年)を採用し、全国公募しています。研修医の年間の学会発表は5回くらいはあります。

(副院長 内科 笠井正晴)

## 消化器科

当院が消化器を標榜して10年目となるが、この間、施設および内視鏡を主体とした機器の充実とスタッフの育成をはかり、緊急を含むほとんどの消化器疾患に対応できる現状となった。現在、消化器科として、常勤医6名おり、内視鏡のスタッフとして看護婦5~6名、内視鏡学会認定技師5名がいて、吐・下血などの緊急時に速やかに対応している。

2000年の検査については、胃内視鏡検査3,079例、大腸内視鏡検査1,569例、腹部超音波検査1,927例施行している。胃・大腸ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術215例、ERCP246例、および食道静脈瘤治療、超音波下肝腫瘍治療、ESTを含む胆道系治療等を積極的に行っているところである。

学会活動として当院は、日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会の認定指導施設であり、研修医の指導や学会発表を積極的に行っている。2000年は国際学会に1題、全国学会(日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会)に8題、地方会に10題発表している。また、これまで当院で自主研究として施行してきた、Helicobacter pylori除菌治療についても、2000年11月からは保険適用となり、それを希望する患者さんも多くなり、十分に対処しているところである。また最近、潰瘍性大腸炎やクローン病の患者さんも増え、当院で開発した白血球除去療法(LCAP)を積極的に行い、その成果を上げている。

(消化器科部長 斎藤雅雄)

## 呼吸器科

平成11年1月に新たに開設された呼吸器科は医師1名体制で午前外来を主に診療を開始しました。午後の「禁煙外来」は完全予約制で他の病院では類を見ないニコチン代償療法で禁断症状軽減する治療を行っています、また日本禁煙推進医師歯科医師連盟の会員として「世界禁煙デー」での電話相談等の活動も行っています。

呼吸器科の検査としては一般的なレントゲン検査、呼吸機能検査の他に放射性同位元素を用いた肺血流シンチグラム、気管支内視鏡検査はもとより、肺CT検査は全国的にも高い評価を受ける画像診断ができます。胸腔鏡は胸水疾患の診断ばかりではなく、自然気胸の内視鏡治療は北海道のセンターとして認められています。

気管支喘息の治療にはピークフローメーターを用いたステロイドの吸入療法を取り入れ

ています。また肺結核の後遺症や慢性肺気腫その他の慢性呼吸不全の患者さんに対して在宅酸素療法も始めました。死亡率1位の肺癌に対しては胸腔鏡手術から開胸手術・化学療法・放射線療法の集学的治療が可能です。

学会活動としては日本気胸学会理事、日本内視鏡外科学会評議員、日本内視鏡外科学会雑誌編集幹事、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会指導医、日本気管支学会・気管支鏡指導医、北海道内視鏡外科研究会世話人をしており、全国学会総会で口演2回、横浜呼吸器談話会の特別講演の他札幌市職員共済組合の「健康講座」の講師、札幌薬剤師会の講演も行った。

外来診療では職業病であるじん肺に力を注いできた甲斐があり「じん肺患者交友会」が組織され当院で患者・家族の交流会が開催され、他院に通院している患者さん達も多数参加された。また再興感染症である肺結核の早期発見と院内感染の防止に努めております。入院診療においては血液内科・消化器科の先生のみならず、手術時には外科・麻酔科の先生方のご支援いただきこの紙面を借りてお礼申し上げます。

(呼吸器科部長 本田 哲史)

## 整形外科

ここ数年スタッフは変わらず東、高橋の団塊の世代の二人体制で診療しています。二人は大学のテニス部から医局の股関節班の縁であり、そのつきあいは非常に長いものがあります。当人達は性格を始めとして似ている所などは一つもないと思っているのですが、口調、年格好、背格好が似ているせいか、高齢の患者さんには主治医の区別がつかないことが時折あるようです。

年間200余例の手術症例の約40%は股関節に関するものですが、東先輩のこの分野における真摯な態度は医局時代と何ら変わるものはなく、常に真理を求めている姿には見習うべき所が多いと思っています。慢性疾患で貯血の可能な症例に対しては、積極的に手術時の自己血輸血を行っており、その方法と結果については最近まとめられました (Preoperative autologous blood donation in hip surgeries. Transfusion Science 23: 177, 2000)。

次に多い手術症例は長期透析患者に対するものであり20%程あります。合併疾患が多く体調や切断端の状態などによりなかなか義足にまでもっていけない事、最近増えてきている手根管症候群の再発例の手術成績が余りよくない事などで頭を悩ませています。

病院の性格上新鮮外傷が少なく、整形外科には明らかに高齢化の波が押し寄せています。さらに増えるであろう老人性骨粗鬆症、膝関節症に対して現在行っている治療でよいのだろうか、私の書いた主治医意見書ではたして介護度が決められてよいのだろうかなど疑問が多い昨今であります。

(整形外科部長 高橋修司)

## 麻酔科

当院に麻酔科医として赴任してきて8年が過ぎ9年目を迎えています。その間に麻酔科管理手術件数も増加してきています。最初の1年間の麻酔科管理手術件数は572件でしたが、1998年は641件、1999年は645件、2000年は698件と年々増加の傾向を示しています。透析患者に限定してみると初年度31件からここ3年間は90件、109件、125件となっており、麻酔科管理手術件数の増加は透析患者の手術件数の増加によるところが大きいと考えられます。透析患者の麻酔科管理手術件数も8年間で延べ693件に達しています。

学会発表でも、全国学会では透析患者の麻酔関連で、日本透析医学会、日本臨床麻酔学会で報告を行っており、腎不全外科研究会においても同様の発表を行っています。地方会では、特殊症例の麻酔に関する報告をし、札幌医師会学会では、麻酔と関連のある睡眠時無呼吸症候群についての報告を行っています。

今後も腎不全患者の麻酔関連の臨床研究を中心に報告し続ける予定です。

(麻酔科医長 中尾康夫)

## 人工臓器治療センター (AOC)

人工臓器治療センターでは現在、東で入院透析コンソール14台、西で外来透析72台、ICUで3台が稼働しています。他に西で遠心型血液分離装置、CS3000とCS3000 PLUS、主にICUでCRYOFILTRATION用CS203、血漿交換交換用PLUS AUTO1000が使われています。またAOC西ではCYTAPHERESISも定期的に施行されています。平成12年4月より13年3月までの総治療回数は血液透析約41000回、LDL吸着5回、エンドトキシン吸着5回、CRYOFILTRATION22回、DOUBLE FILTRATION PLASMAPHERESIS4回、CYTAPHERESIS709回、末梢血幹細胞採取70回、リンパ球採取1回、血小板採取1回でした。平成13年3月現在の総透析患者数は275名でした。

昨年度も医師、パラメディカルを問わず、学会に積極的に参加、発表を重ねました。全国学会としては、来年度川村理事長が主催される、日本人工臓器学会および日本アフエリシス学会、再来年米川院長の主催される日本医工学治療学会を初めとして日本透析医学会、急性血液浄化学会、その他各種全国規模の研究会にも発表しております。また地方会でも同様に参加、発表を行いました。北海道規模のアフエリシス学会、透析療法学会、血液浄化学会、腹膜透析研究会、透析骨関節障害談話会などがあげられます。当院で人工臓器による治療を受けられる患者さんも年々増加してきております。少しでもより良い治療を受けられるよう、われわれスタッフも日々研鑽を重ねる必要があると考えます。

(人工臓器治療センター長 久木田和丘)

## 小児科

小児科は、平成 12 年 4 月に新たに開設され、医師 1 名体制で始めました。外来診療は、急性疾患の診断と治療が約 7 割、その他慢性疾患の継続的ケア、予防・発達相談などです。急性疾患以外では、喘息、アトピーなどアレルギー関連疾患が少なくなく、日常生活において負担の少ない治療を心がけています。学校検尿で異常を指摘された患者の follow も、御紹介頂いた患者を含め、継続して行っています。心疾患、内分泌疾患等々専門分野の症例は、大学の各グループに相談させていただいております。予防接種、乳児健診などは、現在のところは予約制をとらず実施しております。核家族化といわれて久しいですが、さらに情報の氾濫する中で、母親の不安、疑問、悩みなど対応できる限りお話しし、パンフレットなどを作ってよりわかりやすい診療をと努力しています。12 月から 3 月にかけては、ご紹介頂いた患者も多く、入院患者が途切れない時期もありました。病棟でも小児の入院対応が少しずつ定着していますが、よりスムーズにはこぶように改善してゆきたいと思えます。

患者さんからたくさんの情報を収集し、質の高い診療を心がけ、今後につなげてゆきたいと考えております。各部署のご支援を宜しく申し上げます。

(小児科 安田一恵)

## 歯科

歯科は平成 12 年 11 月より、それまで週 3 日午後のみ体制より、月曜日から土曜日までの毎日の診療となりました。まだ常勤となつて間もないので、患者さんの中には毎日やっていることを知らない人もたくさんいたようですが、徐々に患者さんも増えつつあり、毎日忙しく診療しております。札幌北榆病院の中の歯科というだけあって、血液疾患や透析患者、また他の有病者の割合が高く、普通に治療することも制限されることが多々あり、一歯一歯の治療のみならず 1 口腔単位、また全身も管理しながらの治療となっています。また、一階の歯科まで降りてこられない患者さんのために病室への往診も行っています。病院歯科という特色をいかして、様々なデータや統計をとり、診療に取り組んでいきたいと思っております。

(歯科 今井 信)

## 人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

平成 8 年度に本研究所が開設されてからすでに 4 年経ちました。平成 12 年度の研究所関連の業績として、英文誌 3 題と邦文誌 1 題の報告の他に国際学会 3 題、全国学会 11 題、地方学会 2 題の発表を行いました。

今年度の研究課題として、外科からは川村理事長らの「血液透析用穿刺型ブラッドアクセスの開発」、堀江医長らの「炎症性腸疾患における白血球除去療法の有効性とそのメカニズムの解明」、田中医長、増子、土橋医員らの「虚血肢モデルに対する HGF 遺伝子 plasmid 導入の効果」や「ストレス応答性物質の誘導とその虚血再灌流傷害に対する保護効果」、村井医員らの「脂肪肝門脈塞栓後の肝再生の病態」など、血液内科からは小笠原医長らの「樹状細胞を用いた造血器悪性腫瘍の免疫遺伝子治療の基礎的検討」や「アンチセンス遺伝子を用いた白血病遺伝子治療の基礎的研究」、笠井副院長らの「リンパ系腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の検討」など、消化器内科から斎藤部長らの「胃十二指腸疾患と Helicobacter Pylori 菌との関連性」について取り組んでいます。ある程度の目安がついた課題から次年度に移行せねばならないものまでありますが、研究所の名前どうり遺伝子治療から人工臓器、移植、消化器内科外科領域に渡る研究テーマに鋭意挑戦しています。

これまで本研究所で行った研究課題による医学博士取得者は、平成 11 年度の高橋禎人医員「肝虚血再灌流傷害に対する耐性獲得における飢餓ストレスの役割に関する実験的研究」（移植）、田中医長「モルモット-ラット異種肝移植における拒絶反応の機序：異種肝移植モデルの作製と抗補体物質 Perfluorochemical (FC43)の効果」(北海道医誌)、平成 12 年度の鹿取医員「Prior induction of heat shock proteins by a nitric oxide donor attenuates cardiac ischemia/reperfusion injury in the rat」(Transplantation)、安原委員「ラット小腸温阻血再灌流傷害に対する L-glutamine 誘導性 Heme oxygenase-1 の効果」(北海道医誌)の 4 名です。

最近の研究は分子生物学あるいは分子遺伝子学的手法を用いなければ進まないことが多く、各種遺伝子発現レベルの測定、蛋白質の定量あるいは免疫組織染色などが必須となっていますが、各研究者達は内科外科を問わず、自らの研究テーマに沿った分子生物学測定方法を修得して研究を行っています。

これらの研究は診療を終えてからあるいは土日曜日に集中して行っていますが、実験動物の飼育係の木村さんと本間さんならびに実験助手の宮下さんらのサポートなしにはできません。日々のご協力に感謝しています。

(人工臓器・移植・遺伝子治療研究所副所長 玉置 透)

## 論文

## 邦文

1999 年

膜分離方式 3. クライオフィルトレーション . 川村明夫 (札幌北榆病院・外科). Clinical Engineering 別冊 アフェレシスマニュアル, 日本アフェレシス学会編, 秀潤社, 東京, p.40-44, 1999

自然気胸手術における肺CT三次元画像の臨床的検討 . 本田哲史 (札幌北榆病院・呼吸器科). 気胸 第2巻, 第3回日本気胸学会総会論文集, p.156-159, 1999

2000 年

血漿交換 . 川村明夫 (札幌北榆病院). 輸血学 - 理論と展望, 霜山龍志 編, 北海道大学図書刊行会, 札幌, p.240-250, 2000

繊維を用いた白血球細胞除去療法 リンパ球除去は炎症性腸疾患に有効か . 川村明夫, 堀江 卓, 玉置 透, 米川元樹 (札幌北榆病院・外科), 斎藤雅雄, 大泉弘子 (札幌北榆病院・消化器科). 日本アフェレシス学会雑誌 19(1): 28-33, 2000

劇症肝炎に対するアフェレシス . 目黒順一, 内田泰至, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 久木田和丘, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科). 人工臓器 29(1): 190-196, 2000

Cryofiltration 施行中に引き出される EDA(+)フィブロネクチンの検討 . 米川元樹, 久木田和丘, 目黒順一, 玉置 透, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科), 坂下栄治 (大塚製薬工場). 人工臓器 29(2): 473-477, 2000

血液浄化用ブラッドアクセスとしてのダブルルーメンカテーテルの改良と問題点 . 久木田和丘, 内田泰至, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科). 人工臓器 29(2): 478-482, 2000

インターベンション治療による長期的Blood Access管理と展望 - 医療経済的展望を含む

- . 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科). 日本透析医会雑誌 15(1): 86-87, 2000

ストレスタンパク質と腎虚血再灌流傷害 . 海津貴史, 玉置 透, 田中三津子, 川村明夫 (人工臓器・移植・遺伝子治療研究所). 低温医学 26(1): 10-17, 2000

骨髄移植関連 T M A とは . 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科), 濱口元洋 (名古屋第一赤十字病院・内科). 血液・腫瘍科 41(5): 387-391, 2000

骨髄移植関連 T M A の全国アンケート調査 . 小林直樹, 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科). 血液・腫瘍科 41(5): 392-399, 2000

Helicobacter pylori 除菌後もプロトンポンプ阻害薬 (PPI) 投与にて治癒の認められない難治性胃潰瘍の 1 例 . 斎藤雅雄, 鎌田 豪, 中井義仁, 加藤寛士, 川村直之, 大泉弘子 (札幌北榆病院・消化器科). Helicobacter Research 4(6): 558-561, 2000

生物材料による液性免疫関連物質の吸着除去 . 米川元樹 (札幌北榆病院・外科). Clinical Engineering 11(1): 12-17, 2000

国際難病支援研究会の活動 - 上海, ウルムチで血液透析を支援 - . 川村明夫 (札幌北榆病院). Clinical Engineering 11(3): 247-250, 2000

胸骨斜切開による縦隔内異所性副甲状腺摘出術 . 米川元樹, 久木田和丘, 目黒順一, 玉置透, 田中三津子, 内田泰至, 増子佳弘, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科). 手術 54(1): 49-52, 2000

ブラッドアクセス修復の手技 (2) PTA, ステント等 interventional angioplasty . 久木田和丘, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科). 臨床透析 16(9): 1479-1485, 2000

同種末梢血幹細胞の動員と採取の実際 (副作用, Poor Mobilizer を含めて). 木山善雄, 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科). Progress in Medicine 20(8): 1535-1538, 2000

献腎移植の周術期 Critical Care . 玉置 透, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科), 中尾康夫 (札幌北榆病院・麻酔科). 集中治療 12(8): 889-897, 2000

血液浄化回路を用いた簡易冷却回路の試作および臨床応用 . 土濃塚広樹, 田島恵子, 那須

野優美，鶴谷敬之（札幌北榆病院・臨床工学技士），玉置 透，目黒順一，久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）. 集中治療 12(別冊): s97-s98, 2000

骨髄腫腎のアフェレーシス治療．堀江 卓，川村明夫，米川元樹，久木田和丘，目黒順一（札幌北榆病院・外科），笠井正晴（札幌北榆病院・内科）. 腎と透析 49(3): 511-516, 2000

血液透析患者における汎発性腹膜炎手術と予後．久木田和丘，目黒順一，内田泰至，増子佳弘，田中三津子，玉置 透，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科），中尾康夫（札幌北榆病院・麻酔科）. 腎と透析 別冊，腎不全外科 2000，p.110-112, 2000

透析患者の腰椎麻酔．中尾康夫（札幌北榆病院・麻酔科），久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）. 腎と透析 別冊，腎不全外科 2000，p.119-120, 2000

長期留置カテーテルの問題．久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）. 腎と透析別冊 アクセス 2000，p.43-47, 2000

大血流量シャント症例の検討．久木田和丘，有倉 潤，村井紀元，海津貴史，内田泰至，飯田潤一，増子佳弘，堀江 卓，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）. 腎と透析別冊 アクセス 2000，p.97-99, 2000

内シャント症例における経皮的血管形成術と成績 - 良好な適応症例の検討 - について．村井紀元，久木田和丘，有倉 潤，海津貴史，内田泰至，飯田潤一，増子佳弘，堀江 卓，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）. 札幌医通信 No.391, p.12-14, 2000

睡眠時無呼吸症候群に対するコンピュータ通信を介した終夜睡眠ポリグラフ検査．中尾康夫，米川元樹（札幌北榆病院・スリープ外来）. 札幌医通信増刊 No. 197，第 25 回札幌市医師会医学雑誌，p.151-152, 2000

Gibbon ape leukemia virus receptor を介した造血幹細胞への遺伝子導入．小川貴史，加藤菜穂子，山口薫子，小林直樹，小笠原正浩，木山善雄，直原 徹，比嘉敏夫，笠井正晴（札幌北榆病院・内科）.札幌医通信増刊 No. 197，第 25 回札幌市医師会医学雑誌，p.255-256, 2000

シャント側の腕が腫れていませんか？ 久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院）. 透析ケア 6(6): 40-41, 2000



手掌多汗症に対する根治的治療としての胸腔鏡下交感神経遮断術 加勢田 静,青木輝浩,清水邦彦(済生会神奈川県病院・呼吸器科),本田哲史(札幌北榆病院・呼吸器科). 皮膚病診療 22(3): 279-283, 2000

英文

2000年

Preoperative autologous blood donation in hip surgeries. Azuma T, Takahashi S (Dept. of Orthopaedics, Sapporo Hokuyu Hospital), Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). Transfusion Science 23: 177-181, 2000

Prior induction of heat shock proteins by a nitric oxide donor attenuates cardiac ischemia/reperfusion injury in the rat. Katori M, Takahashi T, Kakita A (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.), Tamaki T, Tanaka M, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital). Transplantation 69(12): 2530-2537, 2000

Functional integrity of the rat liver after subzero preservation under high pressure. Takahashi T, Kakita A, Takahashi Y, Sakamoto I, Yokoyama K, Fujiu T, Yamashita S (Kitasato Univ.), Tamaki T (Sapporo Hokuyu Hospital), Takazawa Y, Muratsubaki R (Sugino Machine, Inc.). Transplantation Proceedings 32: 1634-1636, 2000

De novo protein synthesis induced by donor nutritional depletion ameliorates cold ischemia and reperfusion injury in rat liver. Uchida Y, Tamaki T, Tanaka M, Konoeda Y, Kaizu T, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi Y, Kakita A (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.). Transplantation Proceedings 32: 1657-1659, 2000

Heme oxygenase-1 expression in rat Kupffer cells by immunomodulating agents: Role in the pathogenesis of hepatic ischemia/reperfusion injury. Tamaki T, Konoeda Y, Tanaka M, Uchida Y, Kaizu T, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi Y (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.). Transplantation Proceedings 32: 1665-1666, 2000

Effect of leukotriene B4 receptor antagonist (ONO4057) on hepatic allografting in rats. Tanaka M, Tamaki T, Konoeda Y, Uchida Y, Kaizu T, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital). Transplantation Proceedings 32: 2340, 2000

Stromal cell-independent differentiation of human cord blood CD34+CD38- lymphohematopoietic progenitors toward B cell lineage. Yoshikawa Y, Hirayama F, Kanai M, Nakajo S, Ohkawara J, Fujihara M, Yamaguchi M, Sato N, Sekiguchi S, Ikebuchi K (Hokkaido Red Cross Blood Center), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). Leukemia 14: 727-734, 2000

Randomized comparison of mobilization kinetics of circulating CD34+ cells between biweekly CHOP and dose-escalated CHOP with the prophylactic use of lenograstim (glycosylated rHuG-CSF) in aggressive non-Hodgkin's lymphoma. Itoh K, Ohtsu T, Sasaki Y, Ogura M, Morishima Y, Kasai M, Chou T, Yoshida K, Ohno T, Mizorogi F, Uike N, Sai T, Taniwaki M, Ikeda S, Tobinai K (The Lenograstim/Lymphoma Study Group). Leukemia and Lymphoma 38: 521-532, 2000

## 編集後記

Patient good outcome のために病院は存在し、そのための機構、制度を整え、また医師、コメディカルスタッフ等の教育研修を充実させる必要がある。組織が肥大化すると情報を各組織に適切に迅速に伝える必要が更に増す。そのための組織化力がその組織に備わっているか否かは大切な問題であり、その方策の一つの試みとして機能評価機構による評価システムが存在している。当院も全国に先駆けて機能評価を受け認定病院となっている。しかし、組織にエネルギーを与えるのは人の熱き想いである。人の熱き想いを燃やし続けられるよう組織を魅力的にするよう英知を結集しなければならない。治療に際しては、「インフォームドコンセント」を取得する際に、医師、患者の相互の情報の提供の仕方、受け取り方等々、様々な要素を含んではいるが、要は医師、患者双方が「納得」して治療をし、治療を受けているかが問題なのである。Patient good outcome のために組織の充実に向け内外のエネルギーの充実化に努力中であります。2001年4月には医療法人より特定医療法人北榆会 札幌北榆病院となり、公的な性格の医療機関となっております。診療科も従来の外科、内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、整形外科、麻酔科に加え小児科と歯科が常勤固定医による診療体制をとるようになり、各領域での対応が可能となってきました。対外的には2002年度には当法人の川村明夫理事長が第22回日本アフェレシス学会学術大会、第40回日本人工臓器学会大会を主催する予定であり、院内・外での組織力の充実、発展をみております。今後も諸先生の御支援を賜り、医療を発展させたいと思います。

副院長 笠井正晴

(医)北榆会誌 第十四巻

JOURNAL OF HOKUYUKAI VOL.14, 2001

平成13年発行

発行者 川村明夫

AKIO KAWAMURA

発行所 特定医療法人北榆会

HOKUYUKAI

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条6丁目

HIGASHISAPPORO 6-6, SHIROISHI-KU, SAPPORO 003-0006

TEL. (011) 865-0111